

- ・ガット船、油圧ショベルと融合

大川海運(本社・千葉県木更津市、大川裕士社長)は5月26日、千葉県木更津市の木更津港潮浜岸壁で油圧ショベル搭載船「勇青昇(ユウセイショウ)」の船内内覧会を開催。マリコン、セメントや生コンメーカー、骨材および海運業者、建材商社など約100人(24~26日で約500人)が参加した。荷役設備に耐海水仕様のバックホーベース改良型(日立建機製EX1200—6)を、ハッチカバーを完全水密仕様「エルマンススチールハッチカバー」を採用した『ニューガット船』が東京湾内を航行する。

- ・千葉県富津市の鬼泪山国有林山砂採取問題、土石審の当面の開催見送りに

千葉県富津市の鬼泪山土砂事業協同組合と天羽沿線協議会は3日、全国国有林採石協会の通常総会後の林野庁との意見交換で富津市鬼泪山国有林104、105林班での砂利採取実現に向けた要望活動を報告した。2団体は昨年12月中旬に県知事に対し、千葉県土石採取対策審議会(土石審)開催の要望書を提出。約1年かけて地元や近隣の自治会や水利組合の同意を得たうえで富津、君津、木更津3市長の「地場産業育成のため国有林開発を認めてほしい」旨の副申書を添えて陳情したが、3月下旬に商工労働部長は「『採取は時期尚早』と総括した6年前の前回土石審と現在の状況は変わっておらず、国有林は聖域であり踏み込むものではない」と回答を示し、土石審の当面の開催は見送られた。

- ・熊本地震復旧へ 県砕石業協組連

4月に発生した熊本地震で、阿蘇地区の砕石場で切羽が崩れるなどの被害があった。一方、砕石業者数社は、ひび割れや段差のできた道路の補修工事などに向けた砕石供給に努める。県砕石業界の現況について、熊本県砕石業協同組合連合会(古賀克巳会長、傘下7組合、28社32事業所)の下田信美副会長、和田貴嗣副会長、金崎眞一理事に話を聞いた。

- ・東中濃砕石販売協組、リニア特需に向け輸送体制整備、地域の現有ダンプを有効活用

業者間の垣根をなくし地元の建設業界のダンプの有効活用を——。岐阜県の東中濃砕石販売協同組合(藤田武理事長、11社)は来年以降に本格化するリニア中央新幹線関連工事を控え、骨材や残土の運搬を担うダンプの不足を危惧し、地域の輸送業者や建設業者との連携により輸送体制の整備を進める方針だ。「県外の出稼ぎダンプを含めて大幅な増加が見込めないなかで現有ダンプの効率的な活用を目指す。東・中濃地区の建設業界全体で数百台規模のダンプが建設資材の運搬に従事しており、組合内だけでなく地元の建設業界全体で情報を共有しダンプを融通するなど施策を講じたい」(組合関係者)。